

国展工芸

への誘い いざな

⑦

赤絵花文壺

新垣栄三郎



新垣栄三郎「赤絵花文壺」

勢いよい赤絵明快に

壺屋で代々続く陶工の家系に生まれた新垣栄三郎（1921〜84）は、39年に河井寛次郎と濱田庄司のもとで修業。小学校教職を経て、55年頃から作陶に専念するようになった。小橋川永昌、金城次郎とともに「壺屋三人男」と呼ばれ、戦後の壺屋焼を牽引した。赤絵や掻き落としの技法を駆使した作品で知られ、本作もまた勢いよく赤絵の線が引かれた明快な作品である。

（益子陶芸美術館・松崎裕子）

「90回記念国展工芸沖縄展―黎明から現代 匠の系譜」は10月2日まで。月曜休館。県立博物館・美術館美術館企画展示室。入場料は一般1200円、小中高500円。未就学児無料。